

▽取組事例名	政策立案・業務改善研修の実施	▽取組期間	平成20年～
		▽市町名	久万高原町

▽取組概要
「時代の変化に対応できる人づくり」を目的に、職員自ら企画する研修等への派遣

▽取組みの背景
従前、職員研修は、管理職員からの推薦等により参加することとなっていた。せっかくの機会を喪失するものとするためには、研修内容やレベルに職員の意味を取り入れる仕組みが必要と考えていた。

▽取組みの狙い・具体的内容
(取組みの狙い) 豊かな創造性と独創的な政策立案力及び業務改善力を兼ね備えた「時代の変化に対応できる人づくり」
(具体的内容) ①久万高原町職員自らが企画した、研修会、シンポジウム等への参加が可能 ②あらかじめ研修承認申請書を提出し認められた研修等で、本来業務上必要とされる免許、資格取得等のためのもの並びに趣味及び娯楽的なものは除く。 ③研修の実施に当たっては、経費を研修参加者1人について10万円を限度として、予算の範囲内で支給する。 ④研修の実施期間は原則として2泊3日を限度。 ⑤研修参加は1人について当該年度に1回限り ⑥研修参加者は、研修レポート及び精算を記した研修結果報告書を提出する。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）
職員の意欲に差があり、強く参加を希望する者と全く興味のない者がいる中で、スキルの格差がいつそう広がることが懸念される。

☆工夫した点
職員が自ら企画する研修であるので、職免扱いとし、日当は支給しないこととした。 研修を終えた職員に、月1回開催される「職員会」で発表をしてもらい、成果を他の職員にも一部フィードバックできる仕組みをつくっている。

▽取り組みの効果

(具体的内容)

平成20年度(申請7件)

総務課(新しい標本作成技術の習得)

総務課(3セクによるコミュニティビジネス事業体の本町における設立可能性)

総務課(最新の天文学の普及をめざすワークショップ)

総務課(秋の総合実践広報セミナー「文書セミナー」)

産業振興課(農産物の6次産業化の事例調査)

産業振興課(消費人口の少ない中山間地での地産地消の展開と生産販売体制の整備を考える)

産業振興課(後継者創業という新しいモデルから地域活性化を学ぶ)

平成21年度(申請3件)

教育委員会(平成21年度歴史民俗資料館等専門職員研修)

企画観光課(久万高原町「道の駅」開設に資する情報収集)

農政課(ラベンダー苗の育成方法の習得及び苗の仕入れ)

平成22年度(申請2件)

森林林業課(森林情報士養成研修)

企画観光課(第16回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会)

平成23年度(申請1件)

企画観光課(道の駅の整備・運営に関する事例調査)

▽住民(職員)の反応・評価

意欲のある職員、技術系の職員からは、高い評価を受けている。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

毎年でも参加したい職員と全く関心のない職員とに意識の差があり、意欲のある職員が研修参加に萎縮しているように見受けられる。積極的に参加できる環境を整える必要がある。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

職務上参加したい研修を職員自ら企画できるスキームを構築したことは、間違いではなかった。実際は、もう少しエントリーが多いと思っていたが、職員同士がけん制し合う傾向があり、その解消が今後の課題。

また、本町には、農業公園や山岳博物館、美術館、天体観測館などがあり、学芸員にも歓迎されている制度。

今後も継続して、この制度を使った研修を推進し、職員のスキルアップにつなげたい。